

♣グリーン電力出資金出資者  
♣グリーンコープでんき利用者 の皆様

# グリーンコープでんき通信 VOL.33



2020年3月23日発行  
一般社団法人グリーン・市民電力

違法性を問う!

「廃炉円滑化負担金」「賠償負担金」の  
託送料金上乘せはやめてください!!

「託送料金問題」を裁判に訴えます。

2020年2月12日グリーンコープ共同体臨時社員総会・トークセッション

グリーンコープでは、2016年7月に「グリーンコープでんき」の供給事業を開始。初めて電気事業に取り組む中で、これまで知らなかった「電気料金」のことやその中に「託送料金」が含まれていることなど多くの事が見えてきました。その中の一つが、経済産業省で省令化されようとしていた「賠償負担金」と「廃炉円滑化負担金」の託送料金上乘せという問題でした。「これは大きな問題を孕んでいる」ということで、2016年9月に「グリーン・市民電力託送料金検討委員会」(弁護士5名、市民団体3名、公認会計士1人、GC関係者7人)を立ち上げ、これまでの4年間「託送料金問題」の調査・検討を進めると共に各単協における組合員検討を続けてきました。

そして、今年2月12日、JR九州ホールで臨時社員総会を開催。提案された第一号議案は賛成多数で可決されました。総会後は託送料金検討委員の弁護士3人と共同体理事会から4人が登壇し、トークセッションを行いました。「4年間検討してきた様子、訴訟の争点の絞り込みの経過、そして、何より組合員の思いを訴訟にどう生かしていくのか」など、普段は出会うことのない者同士が話し、実りあるセッションとなりました。

## 第一号議案 託送料金訴訟決定の件

私たちは、「賠償負担金」と「廃炉円滑化負担金」が経産省令によって託送料金に上乘せされることの違法性に対して、国と大手電力会社を相手とする訴訟を行います。

訴訟を通して、大手電力会社と原発がどれほど不当に優遇されつづけ、今後もそれが国民負担のもとに続けられていくことになるかを明らかにします。

東京電力と国による福島第一原発事故への責任をより明確にし、その対処が適切に進むようにすること、原発廃炉が適切に進んでいくこと、私たちに見えないようにされている原発が持つ問題をあらためて整理して、原発を本当に続けていくかについて、組合員や国民一人ひとりが考え、話し合っ、決めていける社会に向かうことのために、努力を傾けていきます。



第一号議案を提案する共同体熊野代表理事



トークセッションの様子

「原発フリー」をめざす“グリーンコープでんき”。それなのに、大手電力会社に支払う「託送料金（電線使用料）」には、原発に使われる費用が含まれています。それは不自然でおかしくないかと考え、九州電力にどうしてそうなるのか、お尋ねしています。そのお尋ねに関する進捗はありません。今後、取り組みがすすみ次第、その都度ご報告することになります。

27号からは、グリーンコープが訴訟に踏み出すことを決意した経過と脱原発への思い・願いが記された2019年度グリーンコープ共同体総会議案書「託送料金」からシリーズで紹介しています。

## 託送料金を問う～原発を無くしていくために～

…託送料金に含まれる問題を無くすために、裁判も辞さず、  
たくさんの組合員や市民が話し合い、取り組んでいきます…

— vol.6 —

《前号からの続きです》

②大手電力会社にもよくよく考えてもらいたいのです。「国の決めたことに従っているだけ」という態度は良くないと思います。これで利益を得ているのは会社自身なのです。大手電力会社として「社会の公器」であることを履き違えをしている感じです。「総括原価方式」の考え方に甘えて「事故処理も廃炉も実質は国民に負担してもらおう」といつまでも考えるのはおかしいと気付いてほしいのです。どうしても原発を止めないのならば、原発を営む会社の責任として、原発費用をきちんと負担して、それでも原発を続けられるかどうかを考えるようになってほしいのです。原発の電気を使う利用者にもそれを正確に示して、それでも原発を続けていくかどうかを考えられるようにしてほしいのです。

V. こうしたすべてを、広く、組合員や市民が知って、話し合うことにこそ最も大切な意味があって、脱原発に向かう私たち・グリーンコープの組合員や市民の力が発揮されます。

①この問題に限らず、いつでもそうしよう、とグリーンコープは目指しています。どんな問題や課題も、組合員や当事者（主体）の人たちの間で「情報公開と話し合いで決めていく」ことを貫けば大抵乗り

越えていけます。

②脱原発に向かう道筋でも同じです。だから最も大切なことは、一人ひとりが「私はこう思う。あなたはどう思う。」という会話をしていくことです。分かったことを教え伝えるということではなくて良い、と思います。一人ひとりが自然に思うことを話しあって、みんなで大方の方向を決めていくのが良いと思います。

③原発の本当のコストを明確にさせるだけでなく、電気を使う国民（利用者）自身が、その料金の中味の情報を得て、自分たちでどんな電気を使うかを決められるようになっていく、そんな社会になりたいということです。これはグリーンコープに「組合員主権をつくろう」とするのと同じです。社会の中で「国民主権（当事者主権）をつくろう」とすることです。

### VI. 最後に

①私たちは、チェルノブイリ原発事故や東京電力福島第一原発事故の大きな災禍を見て、人の生命と環境と暮らしを損なう原子力発電所を無くしたいと願っています。原発に頼らない自然エネルギーの発電所づくりや、原発ではない電気の共同購入運動を始めました。そうした中で、原発から逃れようとしても、託送料金（電線使用料）の名の下に、それに原発の費用が転嫁されている事実がある

ことを少しずつ知ってきました。

②私たちは、もとより、福島復興が必要であることや、全国に50有余ある原子力発電所をきちんと廃炉させていく必要があることを承知していますし、そのために費用が準備されていなくて、それを準備していかなければならないとなる時、同時代を生きる国民の一人ひとり・新電力事業者として、それをどうしていくかを真剣に考えていかなければならない事を承知しています。私たちだけが賠償負担金を払いたくない、廃炉円滑化負担金を払いたくない、電源開発促進税や使用済燃料再処理等既発電費を払いたくない、と言っているわけではありません。

③しかし、そのように真剣に考えていかなければならない問題であるにもかかわらず、あまりにも、原発を推進した人たちや事業者、それで大きな利益を得てきた人たちや事業者、事故を起こした当事者や利害関係のあった人たちや事業者たちの果たすべき責任が果たされておらず、この大きな問題を考えるに必要な情報がほとんど明らかにされていない中で、一部の人たちが社会通念とはかけ離れたロジックを頭でひねり出し、これらは電気を利用してきた国民の責任ですと言わんばかりに問答無用に付回しするのを止めてほしい、と思っています。

④そして、そうしないと、でんき自由化の本来の趣旨を貫くこともできないはずです。電力自由化は、長年に亘って電気事業を地域独占してきた大手電力会社の一極支配を無くして、様々な電気事業者がより良い電気の供給を目指して、自由に競争していこうというものです。

⑤私たちは、こうして声を挙げ、組合員や市民同士で話し合い、国や大手電力会社とも話し合い、原発の正確なコストが明快に公開され、その中で託送料金も、本

来そうあるべきところの、送配電費用を全ての電気事業者が平等に応分に負担することになるのを願っています。

⑥そのようにならず、このまま、なし崩しのようにして、2020年から賠償負担金と廃炉円滑化負担金が現実化していくとなると、それに味をしめて、これからも託送料金の仕組みを悪用して、本来原子力発電事業を行う大手電力会社等が負担すべきで電気利用者（国民）に負担させるべきでないものを、電気利用者（国民）に負担させていくことにつながっていくのではないかと心より懸念します。原発については、これからも膨大な費用増が考えられるものがあります。そうした費用を透明に明確にして、誰がどう負担していくかを、電気事業者も電気利用者（国民）も考えられるようにならないといけないはずです。本当に必要な費用は、国や電力会社の勝手に決めるのではなく、情報開示と責任明示の上で、電気事業者や国民も実質的に参加して決めていけるようにしていくことが大切と、この3年の検討を通して考えてきました。法律で決めず、安易に託送料金に載せて新電力事業者と電気利用者（国民）の財産権を侵害したり、分からないうちに国民の税金を回すこと等がないようにしてほしいと心から願います。

⑦そして、グリーン・市民電力という私たちの大切な財産を通して、それぞれの立地する地域に寄り添い根ざした自然エネルギーの市民発電所づくりを進め、賛同するグリーン電力出資者の仲間を増やし、原発に頼らないグリーンコープでんきを使っていく仲間を増やしていきます。脱原発に向けて、手を合わせる人たち皆とともに、私たちはがんばります。

[了]



## ■グリーンコープでんき

- ・2月にグリーンコープでんきを供給した契約件数は、GC事業所、組合員契約件数、GC商品のお取引先も含め下表のとおりです。

生協名	GC事業所 契約件数	組合員 契約件数	契約容量 (kW)
GC生協おおさか	8	49	243
GC生協ひょうご	10	25	172
GC生協とっとり	2	39	185
GC生協(島根)	1	82	356
GC生協おかやま	6	79	354
GC生協ひろしま	9	103	499
GCやまぐち生協	5	528	2,239
GC生協ふくおか	101	1,878	8,333
GC生協さが	17	108	660
GC生協(長崎)	11	153	706
GC生協くまもと	36	504	2,585
GC生協おおいた	17	270	1,205
GC生協みやざき	2	132	482
GCかごしま生協	13	201	935
単協計	238	4,151	18,954
G・市民電力(低圧)	42		256
G・市民電力(高圧)	62		4,502
総合計	342	4,151	23,712

## ■2月の電源構成

### 【関西電力エリア】

- ・神戸市環境局西クリーンセンター  
(燃料：一般ごみ) … 100%

### 【中国電力エリア】

- ・敦賀グリーンパワー  
(燃料：バイオマス) … 100%

### 【九州電力エリア】

- ・敦賀グリーンパワー  
(燃料：バイオマス) … 97.8%
- ・馬洗瀬小水力発電所 … 0.5%
- ・杖立温泉熱バイナリー発電所 … 1.1%
- ・家庭用太陽光発電 … 0.6%

※グリーンコープでんきは、電源となっている発電所をすべて特定しています。

※グリーンコープでんきの電源には、原発由来の電気は一切含まれていません。

## ■メルマガ登録会員募集中！

自然エネルギーの発電所づくりやグリーンコープでんき、脱原発に関するさまざまな情報を月1回程度

メールでお届けしています。



## ■市民発電所

- ・グリーン・市民電力の各発電所の2019年12月までの累計実績です。当月の出力制御はありませんでした。

発電所	出力(kW)	発電量(kWh)	売電額(円)
神在太陽光発電所	1,057	910,210	36,408,400
平池水上太陽光発電所	1,260	1,269,892	45,716,115
深年太陽光発電所	1,550	1,390,792	77,233,244
若宮物流センター	47	36,179	1,338,623
広島物流センター	47	41,945	1,551,965
やまぐち西部地域本部	54	49,685	1,639,605
グリーン未来ソーラ(10箇所)	244	337,087	7,078,827
合計	4,259	4,035,790	170,966,779

## ◆グリーン電力出資金

- ・皆さんから出資いただいたグリーン電力出資金の総額(実際に振り込んでいただいた額)は、9億3,197万円になっています。
- ・出資目標額(積立目標額)は、2月21日現在で、11億1,216万円になっています。

生協名	申込人数	申込件数	出資目標額
GC生協おおさか	207	233	17,360,000
GC生協ひょうご	89	108	7,456,000
GC生協とっとり	133	146	10,660,000
GC生協(島根)	240	251	11,870,000
GC生協おかやま	148	165	13,280,000
GC生協ひろしま	663	775	77,557,000
GCやまぐち生協	577	669	42,820,000
GC生協ふくおか	5,401	6,261	528,566,000
GC生協さが	323	362	44,895,000
GC生協(長崎)	571	628	55,633,000
GC生協くまもと	1,474	1,670	124,544,000
GC生協おおいた	777	865	69,548,000
GC生協みやざき	293	329	28,915,000
GCかごしま生協	709	805	79,056,000
合計	11,605	13,267	1,112,160,000

- ・グリーン電力出資金は、市民発電所の建設費に充てています。

- ・2020年2月末支出総額は8億4,881万円で、残高は8,316万円になっています。市民発電所の建設は、継続して調査や検討をすすめています。

これまで出資いただいた金額	931,979,000
これまで支出した事業と金額	848,810,221
神在太陽光発電所、平池水上太陽光発電所、深年太陽光発電所、若宮物流センター、広島物流センター、やまぐち西部地域本部、グリーン未来ソーラー発電所、豊浦太陽光発電所、馬洗瀬小水力発電所、杖立温泉熱バイナリー発電所、ながわ小水力発電所(建設中)、しましま小水力発電所(準備中)、霧島太陽光発電所(建設中)、熊本菊池太陽光発電所、国東第二自然電力太陽光発電所	
グリーン電力出資金の残高	83,168,779